地域密着型サービス評価の自己評価票

() 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)		
I.理	I. 理念に基づく運営					
1. 3	1. 理念と共有					
	〇地域密着型サービスとしての理念					
1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針の中に基本的な事はうたってある。ミーティング等 で職員に説明。				
	〇理念の共有と日々の取り組み					
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念について話し合い、実践に向けて掲載している。入所者 職員家族の方に見える所に掲載している。				
	〇家族や地域への理念の浸透					
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には主な行事に声かけして、いつでも来れるように 取り組んでいる。	0	上記と同じ 広報を出していないので作成に取組たい		
2.地						
	〇隣近所とのつきあい					
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を かけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえる ような日常的なつきあいができるように努 めている	隣近所と離れている。又地域的に住人の方が少ない。犬の散歩の途中や果物類の差し入れに、何名かの人が立ち寄ってくれる。				
	〇地域とのつきあい					
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、 地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に合わせ施設行事を取り入れている。夏祭り、放生会、菊花展等見学及び参加をしている。				

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ナーシング デイケア利用者等の風呂の開放等少人数の見学、受入については特に制限は行っていない。	0	老人会等への施設開放等(会議室)交流の機会を増やしたい。
3.	理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部 評価を実施する意義を理解し、評価を活かして 具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を形式的に実施、改善計画までにならなかった。	0	自己評価を全体で実施し問題点の確認、解消に務めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	利用者の入院時の考え方又は退所の時の相談の在り方に ついての説明等行っている。行事予定や入所状況等の説明 で施設の入退所の考え方等外部の人にも知ってもらう機会 をもてた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともに サービスの質の向上に取り組んでいる	市の行事等に参加している。推進委員会メンバーに市の職員が含まれているので気楽に話が出来、相談しやすくなった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそ れらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者在所中で簡単であるが、主な事は説明 が なされた		研修会でできるだけ取り入れてほしい
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員館間で注意し虐待になるような事はしていない。ミーティングでの徹底。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 3	理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族 等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている	誤解のないようにゆっくりと納得して頂けるまで説明を行う。 確認をしながら話を進めて行く。解約(退所)時は特に本人を 主体とした考え方で家族に説明理解を求めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事やお茶の時間を活用し、くつろいだ雰囲気の中で、 オープンに話せるようにしている。何でも言えるような現状を このまま保ちたい。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については常に気配りを行い変化にはすばやく報告を行っている。 日頃の暮らし振りについては 面会時に行えるようにしている。 職員の異動についてはお尋ねがあればお話している。個人の希望及び力量に応じ支援している。又、家族には定期的に出納関係を確認してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接口頭で聞くこともあれば苦情箱を設置し、多いにご家族の意見を聞くようにしている。職員も同じ意識が持てるよう話し合いを持ちながら生かしている。ミーティングでの実施。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	打ち合わせやミーティングの時間に意見を聞いている。返事の出来ない時は理事長の意見を聞いて解決している。出来る限り意見を聞くようにしたい。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務変更で対応している。パート職員を増やす(募集中)。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方には 異動の話や離職者の事は話題にはせず、 新任の職員が配置された時点で紹介、前任者の説明を行 う。利用者に不安を与えないよう交替後に説明をし、又出来 るだけ希望に沿った勤務体制を取り働き易いようにしている。		
5	人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用 にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象 から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を 発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自 己実現の権利が十分に保証されるよう配慮して いる			
20	〇人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議のおりに話しをしている	0	声掛けの時の言葉使い、入居者に合わせた介助を心がけ る。
21	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成 するための計画をたて、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングしてい くことを進めている	法人外の研修について希望者又は、こちらから人選をして 出来るだけ参加をしている。出来るだけ参加出来る様にシフトを考え実施。		
22	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は電話やたまに出掛けているが、施設全体の交流はない。	0	職員の交流の機会を作りたい。
23	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減する ための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングなどを通じ、何でもオープンに(仕事上のこと) 話せる環境作りに努めている。 個々の不満については個々にて対応ゆっくり話しを聞く。 アドバイスを行う。	0	2~3ヶ月/1回の職員交流を目的に食事会

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働 けるように努めている	年齢により正職員に当てはまらない時は 準社員としての雇用を考えてあり、対象者があれば 理事長へ推薦できるようになっている。時々理事長より話される。対象者(推薦される人が)出来る様に実績を上げるため努力したい。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 相談から利用に至るまでの関係づくりとその)対応		
25	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初対面が大事と思っているので警戒心を抱かないような環境作り、本人が一番落ち着く場所でお茶など飲みながらなど。 身近な話題より声掛けを行い相手の話を出来るだけ聞く側にたち、何でも話せるような環境作りを努めている。		
26	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っている こと、不安なこと、求めていること等をよく聴く機 会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に対しては失礼の無いように言葉を選んで話を進めていき、 私的な内容に入った時」には 何故それが必要なのかを まず説明し理解を深める。不安をなくすことを心がけし安心して入所されるように努めている。		
27	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず 必要としている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている	まず優先順位を決めてから次ぎの段階へ移るよう家族本人と話合い理解を求めながら進めていく。希望を一気に取り入れるでなく本人に合わせて会議の中で次のステップを決めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	め次ぎの段階へと進む。徐々に馴染めるように取組易いもの		
2.	・ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ <i>0</i>			
29	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩としての尊敬と敬意を常に持ち、言葉使い行動に 注意している。学ばせて頂いてるという意識を持つ事によって信頼関係が生まれ来ると思いながら業務に携わる。本人の友人、知人等の話の中で考え方等の知識を得て係わりをもって相手に何でも話せるように心掛けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	同じ説明を行うとする時、職員よりはご家族の方が良いと判断した時には家族と相談しながら、本人が安心される方法を取っている。家族には面会時に現在の状態を説明し変わった点があれば家族の意見を聞いている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援している	何よりも面会を蜜にして頂く事だと感じているので、面会時の 過ごし方を大切にしてもらえる様な雰囲気作り、自室で過ご すのみならず、 ホールにて他利用者の方、職員と一緒に過ごす時間をもつ	0	本人と家族の関係だけでなく他入所者全体で一家族を言う気持ちになって取り組んでもらえるよう進めたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、ご近所の面会、慣れた所、懐かしい所への外出を進めている。(家族と一緒に)。施設で対応出来ない場所、人との関わりについて家族の協力を依頼している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うに努めている			
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な 関わりを必要とする利用者や家族には、関係を 断ち切らないつきあいを大切にしている	良好な関係を保ってる事もある。退所後の訪問等で困ってある事等相談し易いように対応している。		
	その人らしい暮らしを続けるためのケブ	アマネジメント		
1	一人ひとりの把握	,		
35	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に 検討している	定期的に個々に話合いを持ち希望や意見を聞いている。必要であればご家族にも話すこともあるが、本人の希望がなければただ聞くだけにしている時もある。家族の協力を得て対応することが多い。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
36	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把 握に努めている	今までの生活歴を把握、理解した上で、現在の生活の支援を行っている。(より今までの生活に近い状態が保てるように)。入所時に出来る限り家族、病院等より聞き取り、サービスの把握につとめる。			
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの状態が違うので同一だはなく個々の対応を心がけている。自室でゆっくりとご自分の好きな事をするお化粧など、テレビ、新聞を見たり読んだり、パズル、職員とのおしゃべり。製作等にも自分で選べるものは気に入った物をしてもらっている。			
2. 7	本人がより良く暮らし続けるための介護計画	回の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映した介 護計画を作成している	月1回のミーティングの時には必ず利用者のケア確認。問題点の把握。職員、家族の意見を取りいれながら、一貫性のあるケアが出来る計画書にしている。ミーティング時に、問題点の確認。			
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合 は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現 状に即した新たな計画を作成している	期間内であっても状況が変化した時には、職員で話合いをもち、 本人、家族に連絡確認を取って内容を変更する時もある。その状況に応じ新たな計画書の作成を行なわなければならないが下書きのみで終わっている事もある。ミーティング時に、問題点の確認。			
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている	職員各自が気づいた点は口頭で伝えるのみならず、必ず記録として残している。計画書の見直しや実践に生かしている。カルテへの記入の徹底。			
3.					
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をし ている	関連施設との連携でよりご本人や家族の状況に合った支援 ができる体制にある。	0	グループ内でいろいろな施設有り	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 7	本人がより良く暮らし続けるための地域資源	見との協働		
	○地域資源との協働			
42	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察立寄依賴、学校協力依賴 消防····研修依賴済み	0	心肺蘇生法及び応急処置の研修会実施
	〇他のサービスの活用支援			
43	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院ケースワーカーとの話し合いは持っている。母体のケアマネージャーと話すことが多い。特に入退所の相談。		
	〇地域包括支援センターとの協働			
44	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働している	入所状況の問合せ等あるが実質的には協働との関係に至っていない。	0	居宅、病院のケースワーカーとの話し合い同様に関係を 持って行きたい。
45	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢で持病を持ってらっしゃ方々なので家族・主治医との連携を蜜に行い、内服の内容や量の変更などあった場合には、指示を受けたりしている。(副作用など心配な時)。服薬等電話で相談できる。		
	○認知症の専門医等の受診支援			
46	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所前の係りつけの医師を出来るだけ継続している。認知症の方の入院等難しい面があるので入所前のかかりつけ医の継続をすすめている。		
	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
47	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看 護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理 や医療活用の支援をしている	2ユニットに一人看護師がいるのがローテーションで常勤ではないので、相談や指示が受けにくい。母体NCのDrや看護師の協力を得ている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には数日内に訪問し現状の把握を行っている。看護師からも説明を受ける。必要な時にはご家族と一緒に主治医の説明も受けている。退院後の注意事項等医師、看護師より情報を得て注意している。入院時の面会に努め安心して治療をうけてもらえるようにしている。			
49	きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにか	家族、主治医、職員を交えて、今後の話合いを蜜に行う。 (現状況で、より本人に合った介護のあり方、など)。職員間の意識の統一も図る。受診時の情報を家族へ伝えている。			
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を 見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に 備えて検討や準備を行っている				
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係 者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住 み替えによるダメージを防ぐことに努めている	その時期は いきなり訪れるのではなく徐々に来るものであるから その間に充分説明、本人の心身の状態などを細かく報告し、 理解を求めながら進めていく。家族への十分の説明をする。 面会時に特に変わった点等又現在の状態を常日頃から伝え て置く(誤解のないように)。			
	Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
	その人らしい暮らしの支援 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような 言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	その方の尊厳を守るのが鉄則なので不如意な言葉かけや言動は謹む。個人情報も他の人の目に触れないように配慮している。カルテ等は記帳時以外は必ず所定の場所で保管、職員間の会話も出来る限り他の入所者に聞かれないように注意している。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	聞き手にまわり相手が言いたい事を言ってもらい理解を支援 を行う。外出等家族に依頼する事もある。		
54	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせた活動を行なっている。自由な時間は個人 個人好きな事をしてもらっている。		
(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的	な生活の支援		
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援し、理容・美容は本人の望む店に行ける ように努めている	母体での理美容を利用。外出時等に本人の望まれる所で家族に協力してもらっている。月2~3回の理美容を利用。		
56	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	利用者と同じ物を食べ 下準備片付けの手伝いもしてもらっている。下準備、後片付け等行なってもらっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	ショッピングを取り入れ対応。月1~2回行事に取り入れ対応。又個別に対応も可。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持 ちよく排泄できるよう支援している	職員間で声かけパターンを生かし対応。パターンの把握と声掛け。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	生活リズムの一環として入浴回数、日時等は決めているが 必要に応じご本人に合った対応を行なっている。特に清潔を 保つ事に関しては時間にしばられる事もなく実施している。 プライバシーに気を付けて実施している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できる環境作り。不必要な音は立てない。安全を保てるだけの照明。本人にあった眠前薬の服用。ゲーム等を取り入れたり、短時間の製作をしたり気分転換につとめている。		
(3)	- その人らしい暮らしを続けるための社会的	な生活の支援		
61	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている	無理強いする事なく進んで活動に参加できる様な言葉かけ。 雰囲気作り。掃除、テーブル拭、食器拭、プランターの世話 等自分でされる事は参加してもらっている。		
62	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金 を所持したり使えるように支援している	買い物の時にはご自分でレジに並び、支払いまでされるよう 見守り、支援を行なっている。自分で管理できる人は自分で 持ってある。他の人も買物時はお金を渡して支払いをしても らっている。		
63	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそ の日の希望にそって、戸外に出かけられるよう 支援している	施設周りの散歩や近くの公園への散策。時期、天候など見極めながら行なっている。希望に応じ対応している。		
64	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力も得ながら外出を促している。(限られた職員では難しい所もあるため)。家に帰りたいという希望が一番多く、家族の協力を得て数時間の外出を行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○電話や手紙の支援	自分で出来る人がいない。掛かってきた時は本人に受けさ		
65	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	せる。自分で製作した葉書を自分宛に出したり取組んでいる(年賀状)。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			
66	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に来所でき本人の部屋等で過ごせる様工夫している。居室、リビングの利用は入居者の自由にまかせている。		
(4)	安心と安全を支える支援			
	○身体拘束をしないケアの実践			
67	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由な出入り可能な状態で身体拘束はしない。病院での拘束と施設での拘束の違いを職員が理解している。		
	〇鍵をかけないケアの実践			
68	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に 鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけ ないケアに取り組んでいる	部屋は常に玄関も夜間以外は自由に出入りできる。鍵をかける事も身体拘束になる事を職員も理解している。		
	〇利用者の安全確認			
69	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	玄関にはチャイムが有り、又部屋で過ごす人は職員が前を 通る時、さりげなく確認をしている。夜間は夜勤者1人になる ので特に照明、音に気をつけ確認している。		
	○注意の必要な物品の保管・管理			
70	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組み をしている	危険な物は預かり、使う時は職員が一緒で終わった時点で確認をしている。 ハサミ、ナイフ等は製作時は使用してもらっているが、管理は職員で行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐた めの知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事 故防止に取り組んでいる	定期的に施設内研修。研修参加者の報告。職員間の意識レベルアップ(先輩職員からのアドバイス)。 夜間職員1人の為居室内の音、照明に気をつける。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に 行っている	定期的に実施。緊急時の対応、連絡方法。マニアルに添って実施している。優先順位を考えて対応する様に会議のおり 徹底している。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1~2回程度行われるがシフトの関係で全員参加の対応は出来ていない。近隣が離れている為母体施設への協力をお願いしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に 説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応 策を話し合っている	リスクについてその都度状況が変われば、家族に説明を行い、 予防策を話し合っている。職員間の意識統一も申し送り、引継ぎなどを利用して行なっている。面会時や家族への連絡は職員により伝え誤解のないように伝えている。		
(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面	の支援		
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応 に結び付けている	常に利用者の行動には気配りを行い、異変時にはすばやい対応を心がけている。(誤嚥、ムセ、など)。体調がおかしい時(バイタルチェック)等は自分1人で観察するでなく他の人に伝え注意をしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各個人の薬、目的などしっかりと把握し、誤薬のないように 努めている。薬が変わった時などは、尚一層の注意をしている。服薬も手渡しでなく確実に飲んでもらう様確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動 かす働きかけ等に取り組んでいる	必要量の水分確保。食物繊維の取れる食材料の工夫。ストレッチ運動。散歩などの適度な運動。排便チェック、腹部マッサージ。排便チェック。			
78	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をして いる	声かけだけでは行なえない利用者には、誘導介助を行なう。 声掛けだけで出来ない人は介助にて行う。			
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている				
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MR SA、ノロウイルス等)	職員自身が持ち込まないよう日頃の健康管理に努める。拡大しない為、手洗いうがい、乾燥を防ぐ、消毒殺菌の衛生管理の実施。隔離は難しいのでまず持ち込まないように日頃より職員の健康管理をうながす。			
	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安 全な食材の使用と管理に努めている	外から持ち込んだ食材の衛生管理 生鮮食品の品質管理 安心できる地元食材の使用 調理器具などの消毒、乾燥(煮沸、日光消毒)	0	職員の月1回細菌検査の実施	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)	(1)居心地のよい環境づくり				
82	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやす く、安心して出入りができるように、玄関や建物 周囲の工夫をしている	玄関先、回りの清掃、花を飾ったり利用者の作品の展示など明るい玄関の演出を行なっている。畑の一部を使い花木の植栽。			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や 光がないように配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	聞いてて心地よい音楽をかすかに流す。必要な時にはテレビもつける(天気予報、ニュースなど)。陽射しの強い時にはカーテンでさえぎる。適度の明るさの維持。温度管理、空気の入替。		
84	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような居 場所の工夫をしている	共通の話題で2・3つのクグループができる。テーブルにてパズルを楽しむ。テレビを見る。おしゃべりを楽しむ。職員がそれぞれのグループにかかわる。		
85	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの愛着のあるものを、身近に置いて 今までと同じ部屋にいるような配置にする。使いつけた家具、時計、 衣類等出来るだけ今迄使ってあった物の持込を心掛けし家 族へ依頼している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気 に努め、温度調節は、外気温と大きな差がない よう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに 行っている	起床の声かけと同時に窓を開け、空気の入れ替えを行なう。 掃除の時は部屋のドアも開け部屋全体の空気の入れ替えを する。空気の入替、温度管理は日課として実施している。		
(2)	本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、 安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう に工夫している	備え付けのソファーのみ異動できるので、その方の方位、歩 行状態に合わせ、ソファーの位置を決めている。	0	部屋の作りは皆同じ、ベットの高さも一緒。 ベットは固定で動かせない 身体状況に合わせた備品が選べるようにする
88	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗 を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を未然に防ぐように危険なものは除き、穏やかに 安心して暮らせる環境作りを行なっている。出来る限り自分 でしてもらって手出しはひかえる(意志の尊重)。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を多いに利用している。 好きな花の苗を植え、水遣り、 草取りなど、いつも中庭に出て外気にふれている。利用者に 好きな物を植えてもらっている。管理も自分でされる。		

♥. サービスの成果に関する項目						
項目			最も近い選択肢の左欄に〇をつけてください。			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意	0	①ほぼ全ての利用者の			
			②利用者の2/3くらいの			
90	向を掴んでいる		③利用者の1/3くらいの			
			④ほとんど掴んでいない			
		0	①毎日ある			
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場		②数日に1回程度ある			
91	面がある		③たまにある			
			④ほとんどない			
	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい	0	①ほぼ全ての利用者が			
92			②利用者の2/3くらいが			
92	8		③利用者の1/3くらいが			
			④ほとんどいない			
	利用者は、職員が支援することで生き生きし た表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が			
00		0	②利用者の2/3くらいが			
93			③利用者の1/3くらいが			
			④ほとんどいない			
			①ほぼ全ての利用者が			
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけて		②利用者の2/3くらいが			
94	いる	0	③利用者の1/3くらいが			
			④ほとんどいない			
			①ほぼ全ての利用者が			
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不		②利用者の2/3くらいが			
95	安なく過ごせている		③利用者の1/3くらいが			
			④ほとんどいない			
			①ほぼ全ての利用者が			
00	利用者は、その時々の状況や要望に応じた		②利用者の2/3くらいが			
96	柔軟な支援により、安心して暮らせている		③利用者の1/3くらいが			
			④ほとんどいない			
		0	①ほぼ全ての家族と			
07	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている		②家族の2/3くらいと			
97			③家族の1/3くらいと			
			④ほとんどできていない			

項目			最も近い選択肢の左欄に〇をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や 地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度
		0	③たまに ④ほとんどない
	運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが拡がったり深まり、事 業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
99			②少しずつ増えている
33		0	③あまり増えていない
			④全くいない
	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
100			②職員の2/3くらいが
100			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
101		0	②利用者の2/3くらいが
101			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
102		0	②家族等の2/3くらいが
102			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人の意思や人格を尊重しながら、体力の維持や心身状態の向上に努め 笑い声の絶えない暮らし場を作っている。 例)オムツがはづれた。 パズルが何種類もできるようになった。おかゆからご飯に変わった。